

編集後記

木々の緑も深まり、雨の季節も間近となってまいりました。

今回は小児がんの特集です。小児がんは希少疾患ではありますが、学童の死因第1位となっています。治療成績の向上により、長期生存する小児がん経験者が増加しましたが、その多くが身体的、心理的、社会的問題を抱えていることが明らかになっています。小児がんに限ったことではありませんが、高い生存率だけではなく、治療中の生活の質（QOL）、治療後のQOLを視野に入れた治療方針の選択が求められています。

近年、遺伝子解析技術の飛躍的な進歩により、小児がんの診療も大きく変わりつつあるなか、今回の特集を企画させていただきました。今回取り上げさせていただいた代表的な小児がんにおいても、次々と明らかになる分子遺伝学的な情報を根拠として、遺伝子異常などに配慮して新たにリスクを分類し、層別化した治療が推奨されるようになってきております。

例えば白血病に関する記事には、小児がんで最も頻度の高いB前駆細胞性急性リンパ性白血病で古く

から予後因子として重視されてきたBCR-ABL1融合遺伝子やETV6-RUNX1融合遺伝子が検出されなくとも、類似の遺伝子発現プロファイルを示す群が存在することが述べられています。これらの群では別の遺伝子異常の関連が明らかになってきており、今後は新規に同定された遺伝子異常も含めた新たなリスク分類による治療選択が期待されます。

的確な層別化を行うことにより、低リスク群では治療強度を弱めることにより晩期合併症の軽減と治療後のQOL向上が期待できます。一方、高リスク群では治療に関連したリスクが高まることを承知したうえで、分子標的薬や免疫療法など新規治療薬を使用することにより生存率の向上を優先します。

今回の特集記事を拝見して、わが国では海外では推奨されている薬剤の認可が遅れることが大きな問題となっていることをあらためて感じさせられました。令和の時代に、国際共同研究が進められことにより、このようなドラッグ・ラグの問題も解消され、小児がん患者さんの一人ひとりに最適な治療が提供されるようになることを祈っております。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第60巻 第7号 6月号

2019年6月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,700円＋税）

年間購読料金

定価（本体42,100円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。